

和谐 (Harmony)



平成26年8月12日(火)
上海日本人学校虹橋校
紹介通信 創刊号



胆振国际教育研究会的大家 你们好！

我叫鹿野智雄。我住在上海,到3年。我是上海日本人学校的三年级生负责。有大约260名三年级生儿童。我正和10名学年教师作为主任做学年经营。谢谢。

～胆振国際教育理解研究会の皆様、こんにちは！～

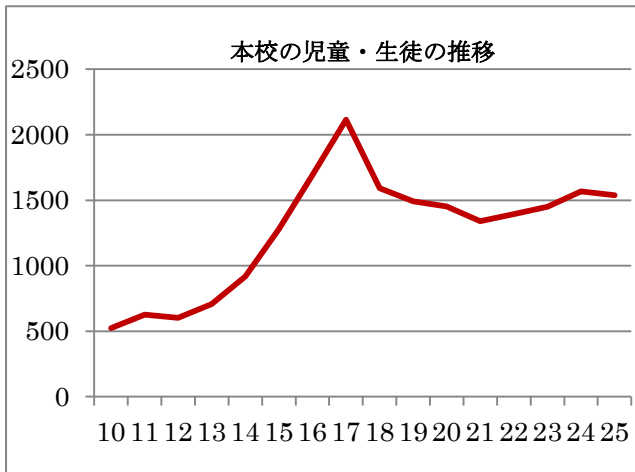
私は鹿野智雄(SHIKANO TOMOO)と申します。上海の生活は3年目になります。現在、上海日本人学校3年生担任として、およそ260名の子ども達と楽しく過ごしています。また、学年主任として、10名の学年教師と共に、学年経営をさせていただいています。

☆ なかなか連絡できずにいたので、少々、虹橋校の紹介をします。

[校名 ; 上海日本人学校虹橋(ホンチャオ)校]

※上海市内には、東浦(プードン)校もあります。平成18年度(泰地校長在職当時)に新設され、現在は、小・中、高の子ども達が学ぶエリアになっています。

児童数の推移 (現在の虹橋校は、純粋に“小学校”です。)



私が赴任したのは H24 年度。左の表で確認すると、東浦校新設以降最も児童数が多くなった年で 1,568 名の在籍がありました。この年は、『日中友好 40 周年』を祝うはずでした…。しかし、政治的な圧力により、市内ではデモが行われるなど意に反する展開となりました。

中国政府 ; 日本姿勢に不満。⇒ “魚釣島” 国有化
日本企業 ; 市場利益の低迷, 家族への早期帰国勧告

現在は上記の事情などにより、児童数は減少傾向を示すようになりました。今年度は、1400名台でスタートし、1学期末には、20名を超える3学年児童が帰国しました。



[目前には 1500 名!! 児童集会より]



☞ H24 は、5年生(7学級編成)担任
写真は、運動後の記念撮影。よさこいソーランは、どこの学校(国内 or 在外)でも定番のようです。衣装は単年度企画(学年費)で購入。最後は、記念品になります。



☞ H25 は、2年生(9学級編成)担任
“全員が賢い子ども達”上海の子ども達は、帰宅後も習い事が当たり前。親の大きな期待通りに育っています。真っ直ぐ素直に育つ子どもの笑顔は、眩しい心の輝きそのもの!!

【学校の1日】

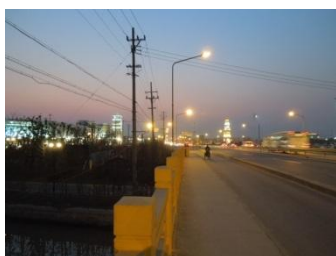
- ①出勤： 朝7時前後に出勤（到着）してきます。最寄りの別荘（別荘）…1戸建形式からは徒歩で、他の公寓（アパート）…中国では標準住宅からは、公共汽车（公共バス）や出租车（タクシー）で20分間範囲の乗車でやってきます。※私の場合、班车（不動産の私的バス）で30分間揺られています。～我没有时间啊！！～
- ②打合： 7時30分をめぐりに主任が学年打合せを開催し、1日の確認を済ませます。職員室内では、100名前後の教職員が、学年毎にユニットになって配置されています。学年毎に1日がスタートするので、職員室全体での“朝会”は存在しません。～会社のように!!～
- ③バス当番： 1500名のほとんどが班車でやってきます。日本人学校にはスクールバスは存在せず、保護者会が不動産のバスをチャーターして児童を送迎しています。各学年では、輪番で7時45分から8時の登校完了まで安全立哨を行っています。※自称『あいさつ世界一』の学校です。
- ④読書タイム： 8時05分～8時15分
この時間は、児童&教師共に『読書』の時間。他の一切が許されません。（体裁かな？）
静かな時間です。賢い上海の子どもたちは、食い入るように文字を追いかけます。ハーフ児童は読解に困難さがあり、苦痛な10分間でもあります。
- ⑤朝の会： 8時15分～8時25分
自治的な運営を要求する3年3組鹿野学級。なかなかスムーズに運営しています。児童が発信する“横のつながり”を重要視させての毎日。失敗は、“お誕生会”、“みんな遊び”などの企画です。児童がよく考え（自宅で入れ知恵も!!）て提案します。リスクが少ないようにと、施設利用や時間帯までを発表するのですが、問答が長すぎます。思いやりは育むものですが…。
- ⑥イングリッシュタイム： 8時25分～8時35分
虹橋校では、学年毎に週のカリキュラムが組まれます。（英語部教員による。）
週に1hの授業と連動させて、身振りのつけた歌を歌います。（みんな流暢です。）
- ⑦移動時間： 8時35分～8時45分
広い校舎内を移動するのに必要な時間です。私の学級児童は、トイレや水飲みで過ごしています。
“校舎内の水は飲料不適”～お腹を壊します～。水筒に飲料水を持参するのが虹橋流。
- ⑧授業： すべてのカリキュラムが日本の『指導要領』に即しています。
・専科授業 ⇒ 音楽（2h/w）, 理科（3h/w）, 英語（1h/w）, 中国語（1h/w）
・5時間授業日 ⇒ 月・水・金
・6時間授業日 ⇒ 火・木
- ⑨下校： 51教室全てが下校時間厳守。（10分間以内の下校を目指して格闘です。）
・下校時に音楽が流れます。（5分×2曲） ※金曜日だけは、1～3年生の早帰りなので曲なし。
・各職員が50台前後のバス担当を担い、下校が完了しているのか迅速に確認します。
・主任は、徒歩通学児童の確認を済ませます。
※不在児童発生時には、児童宅に電話をして確認をとります。
※危険につき、教室には忘れ物を取りに行けない、行かせない。（下校児童で“大河”になります。）
- ⑩退勤： 最近、『21:00めど』を徹底するよう呼びかけがありました。過去2年間は、もっと遅く帰る傾向が続いていたように思います。“もっとよいものを”の思いは痛いほどよくわかるが…、度を越してまで精を出すと、2～3年のスパンで交替し帰国&赴任を繰り返す本校職員にとっては、大きな痛手としてどこまでも成長してしまいます。『常識の範疇』が心身共に望ましい勤務スタイルだと感じます。
- ⑪会議： 勤務時間内に開始し、終わりは…。特に、学年会議は、主任主導で行い、全てを任されています。『1時間以内に終わらせましょう!!』と掲げ、この2年間は努力しています。

[这里是上海 / ここは上海] ～おまけ～

1500万人が暮らす大都市上海。アヘン戦争を終結（南京条約）後、条約港として先進他国が租界し栄えた町です。風光明媚な外灘をはじめ、高層ビルのライトアップは見るものを強く引きつけます。

在上海の邦人は5万人を超え、長期滞在世界一です。政治的な歪みを取り除けば、上海の人々はみな親日。どこをどの時間に歩こうが、危険は感じられません。品物の流通は良く、物価高さえ気にしなければ、必要な物がだいたい手に入ります。

環境汚染（大気汚染）問題は、上海の教育委員会も着手するなど、日本の過剰報道に近似しています。



中国国内の貧富の差は400倍とも言われます。およそ漢族が優位であり、共産党の一党支配の構造が作り上げた社会です。上海市は、中国全土から様々な人々が流れ込んでいる町です。政治が引き起こした少子化現象により、『叔父・叔母、いとこ』の存在がほぼ消滅した現在の中国社会。能力絶対主義で人を評価する中国。子どもにより未来を拓きたいと願う親心は、日本と共通しています。さらに、学校以外にあちらこちらで習い事に向かわせる親の姿も共通しています。上海では、1人の子どもを育てるのに必要な教育費を捻出するために共働きが必須。そのため、子どもへの教育熱は日本の家庭以上であり、学力不振は許されるものではないようだ。1年目に足を運んだ現地の小学校には、成績の順位表が掲載されていました。当然、“級長”に据えられる模範生とは1位の子どもです。何不自由なく、学業に向かわせる親心。また、学力さえつけばエリートにと育つ中国社会…。何かが大きく欠落しているように感じませんか？

街を歩くと気になるのが、ゴミを集める清掃員の姿。50代前後の方々が多く見られ、多少の雨であってもノルマがあるのか必死に清掃を続けています。街を歩く子連れの子は、その存在に見向きもせず歩いているようで、食べ歩きとゴミ捨てを当たり前に行っています。中国には、毛澤東が1963年に『向雷锋同志学习』をスローガンにした運動がある。所謂、道徳教育なのだが…。共産党の向いている方向が民衆ではないことを物語っている実証ではないだろうか？…と。

私が赴任する際、『日本の外から日本を実感したい!』思いがありました。目に映るものすべてが、同じ時間に生きて働いている異国の現状。異国文化との共存は、『近いようで遠い。遠いようで近い。』関係であるように思えます。今、教室の子ども達と『中国のよさ&日本のよさ』について学習しています。在上海の子ども達は、上海が好きで集まる集団です。ここから、日本と中国との架け橋となる存在が確実に誕生し育っていくことでしょう。